



「笑顔があふれる元気な前橋を目指して」

前橋市長 小川 晶

毎年、こどもの日になると、「全国で15歳未満のこどもの数が過去最低を更新」といったニュースを目にします。こどもに関する問題は、少子化だけではなく、児童虐待、いじめ、不登校など様々で、どれも抜本的な解決方法が見つからない厳しい状況が続いています。

幼児教育において、これまで、こどもの自主性や感受性、基本的な生活習慣などは、日常生活の中で自然に培うことができました。しかし、人間関係の希薄化や地域コミュニティ意識の低下など、こどもを取り巻く環境の変化により、体験や経験の中から学ぶ機会が減少したことで、情緒的で知的な思考や社会性が身に付かないといった問題が生じています。

本市では、これら諸問題の解決と併せ、こどもがひとりの人間として尊重され、未来に希望を持って生き生きと活躍できるような地域社会の実現を目指し、「こどものまち前橋推進本部」を設置しました。こどもの権利を守り、こどもの視点でのまちづくりを推進することは、前橋に住む全ての人たちの人権が尊重される社会の実現にも繋がっていくものと思います。

また、こどもたちが他者との結びつきの中で、豊かな情緒と「自分で考え行動できる力」を身に付けられる環境づくりも大変重要です。家庭・地域社会・幼稚園等施設の連携強化による総合的な教育力の向上により、こどもたちが自己高揚感や自己効力感を得ながら社会貢献の意識をはぐくんでいけるような体験・学びの機会の提供に努めてまいります。

笑顔があふれる元気な前橋の未来を作っていくため、保育者・教職員や保護者、地域の皆様におかれましては、引き続き格別なるご支援、ご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

事業紹介



保幼小連携に関わる研修

<p>保幼小研修会 6/13 (木) 「保幼小の連携について～架け橋期の具体的な取組について～」 講師 群馬大学共同教育学部 教育実践センター 教授 安藤 哲也 先生</p>	<p>保幼小連携 地区ブロック研修会 9月～2月の期間に、市内18ブロックそれぞれで保育・授業参観や協議などの研修を行います。</p>	<p>保幼小連携全体研修会 2/5 (水) 「架け橋期の保育・教育でもとめられるもの～令和7年4月に向けて、今すること～」 講師 幼児教育アドバイザー 塩崎 政江 先生</p>
---	--	---

今後行われる研修会について

参加希望がありましたら幼児教育センターまでご連絡ください。☎027-230-9089

こども教育研修会

<p>11月13日(水) 「子どもの人権を大切に する保育」 講師 幼児教育アドバイザー 塩崎 政江 先生</p>	<p>9月24日(火) 「気になる子の支援 ～適切な支援をするために～」 講師 D-discovery まつなみ 代表 松波 芳子 様</p>	<p>10月17日(木) 「主体的な遊びを支える 環境の構成」 講師 お茶の水女子大学 教授 宮里 暁美 先生</p>
<p>12月11日(水) 「保育を語り合おう ～写真に写る子どもの姿から～」 講師 幼児教育アドバイザー 大島 みずき 先生</p>	<p>1月22日(水) 「保育の中の絵本 ～発達に応じた絵本とその役割～」 講師 幼児教育アドバイザー 永井 広子 先生</p>	

幼児教育アドバイザーによる出前研修・出前相談

【出前研修】

研修や
 保護者会での
 指導・助言者
 として

子育て井戸
 端会議での
 講師として

【出前相談】

気になる子の
 対応の仕方や
 保育に対する
 相談・助言

保護者の
 悩み相談

など

など

★経験豊富なアドバイザーが訪問します★

- 幼児教育アドバイザーの先生方です。 (五十音順 敬称略)
- 荒瀬 優子 小学校長・幼稚園長・特別支援教育経験者
 - 稲塚 由里 子育て経験者
 - 井上 昭子 子育てネットワーク「ゆるいく」代表者
 - 今井 寿美枝 チャイルドハウスゆうゆう施設長 レクリエーションコーディネーター
 - 大島 みずき 群馬大学准教授
 - 奥野 みどり 臨床発達心理士 群馬パース大学看護学部教授
 - 塩崎 政江 市教育長・小学校長・幼稚園長経験者
 - 関谷 祐貴子 発達障害児の理解啓発ボランティア 小学校通級指導経験者
 - 田中 輝幸 群馬医療福祉大学准教授 認定こども園園長
 - 都丸 千寿子 群馬パース大学福祉専門学校校長 小学校長・幼児教育・特別支援教育経験者
 - 永井 広子 共愛学園前橋国際大学短期大学部教授 幼稚園長経験者
 - 三好 玲子 小学校長・幼稚園長経験者
 - 山口 裕子 言語聴覚士 特別支援教育・通級指導経験者
 - 横坂 好枝 共愛学園前橋国際大学短期大学部教授 幼稚園長経験者

就学に向けての相談



○電話相談

対 象：市内在住の年長のお子さん
受 付：月曜～金曜（9：00～17：00）
電話番号：027-210-1234

※電話相談後、面接相談の予約（①10:00～②14:00～）が必要です。面談相談は1時間程度です。お子さんと一緒にお越しください。

◎面接相談後、以下の相談や教室をご紹介しますこともあります。

- 幼児の発達相談 お子さんの就学に関する医師との相談 年10回開催予定
- いきいきことば相談 言語聴覚士との相談 年9回開催予定
- 幼児教室 隔週 月曜～金曜 1回45分
- 言語聴覚士によることばの教室 毎週月、火、金曜（10：00～）

ちょっと聞いてみたい・・・

Q&A

★幼児教室の先生に困ったときの対応の仕方について伺いました。ちょっとアドバイス。

Q：やりたいことがあるとうまく気持ちを切り替えられません。どう対応したらいいですか。

A：まずは、「あと1回だけね」「時計の長い針が2までね」など少しかかりを受け入れてみるというかもしれません。自分の思いを汲んでくれると思えば、その後も指示が通りやすくなります。他にも、自分で決めたとおぼえるように、終わり方を選ばせたり、「〇〇を見てから、～しよう」と好きなこと、興味のあることに一度、気持ちを向けたりするのもいいと思います。また、「みんなが座ったらトイレに行こう」など次の活動の参加の仕方をその子なりの形にしてあげる工夫もしてあげてはいかがでしょうか。

それから、遊び始めや終わりの環境を周りの大人が整えてあげることも大事です。「今日は2つだけ遊ぼうね」など始める前に約束をしたり、「続きは明日」「ここに置いて、おしまいね」など切り替えをしやすい流れを作ったりするといったと思います。

Q：自分の思い通りにならないと物を投げたり、叩いたりと手が出てしまいます。そんな時、どうしたらいいですか。

A：まずは、なぜ叩くのかを考えてみましょう。叩くのはいけないと分かっても衝動性の高い子は、とっさに手が出ることもあります。「〇〇しないでほしい」などの要望をうまく言葉で伝えられなかったり、相手の嫌がることや危険の予測ができず「そこに友達がいたから」という理由で悪気なく叩いたり押ししたりします。

友達に危険が及ぶ場合は、その場でやめさせたり、一度そこから遠ざけたりして、「危ないです」「痛いです」と本気の顔で、低い声で言うと効果的です。少し時間を置き、クールダウンした時に理由を聞いたり、どうすればよいか一緒に考え、約束したりします。その時に「物を投げない」「叩いてはいけない」ことを簡単な言葉と絵で伝えるといったと思います。

また、取り合いにならないように同じ玩具を複数個用意したり、活動に集中しやすいコーナーを用意したりするなど、人との距離を作るような環境の工夫も大切です。物を投げようとした時に「この箱に入れようね」など他の好ましい行動へ促してあげるのもいいでしょう。

日頃から生活の中で好ましい行動がとれている時は、当たり前と思わず、褒めて、人の気持ちや表情への関心を高めていくことが必要です。

Q：やってはいけないこと、やってもよいことを一生懸命伝えるが、伝わりません。分かりやすく伝えるコツを教えてください。

A：やはり繰り返し伝えることです。視線を合わせたり、視界に入ったりしながら、伝えたいことを伝えます。その時は、伝えることだけに集中し、姿勢の保持や他の行動などについて加えて注意しないことも大切です。

聴覚的な指示だけだと頭の中に入らない子もいるかと思いますが、視覚的な指示を心掛け絵を描いて2～3語程度の短い言葉で伝える工夫をしてみましょう。生活の中で「楽しいこと」と併せて「ルール」や「約束」も絵カードを使って話をしていくことも必要だと思います。遊ぶ前に絵カードを見せ、約束を思い出すよう促すのもいいでしょう。

日頃から心掛けることとして、一貫性をもって接することが大切です。「今日はちょっとだからいいか」とブレてしまうと、こどもも迷ってしまいます。

ぜひ、園所やご家庭でも参考にしてみてください。



じゅんばんがくるまでまつ



つぎのひとにかわる

★幼児教育センターの設立から20年が経過した今、長い間関わりのある塩崎先生にお話を伺いました。

全国に誇れる前橋市幼児教育センター

平成15年4月、市内にあった若宮・神明・総社の3園が統合され、それに伴い3年保育、預かり保育が実現されることになりました。同時に全国でも先進的な、群馬県で初めての「幼児教育センター」が設立されました。幼児教育センターだより創刊号には、桜井教育長が「市内の就学前の子どもたちのために、保育所(園)や幼稚園で行っている幼児教育のこれからの在り方を考えていく中心的な役割」と、その意義を語っておられます。平成17~18年度には文科省「幼児教育支援センター事業」の指定を受け、「保育カウンセラー」「幼小連携アドバイザー」をサポートチームとして配置し、「先生と子どもを応援」「幼保小連携を応援」「親と子を応援」の三本柱で事業を推進しました。さらに、平成19~20年度は文科省「発達障害早期総合支援モデル事業」の指定を受け、実践研究も進めました。平成22年4月に、現在の総合教育プラザ内に移転しましたが、その成果は現在の「幼児教育アドバイザー」制度やこども教育研修会、保幼小連携、相談事業等につながっています。

今、世界的に「非認知能力」に注目が集まり「幼児期の教育こそ重要視しなければ」と叫ばれています。幼児教育の充実に大きな役割を果たす幼児教育センターが設立されている前橋市は、全国に誇れる教育都市と言えます。



(まえばし幼稚園に併設していた開設当初の幼児教育センター)

【市立幼稚園保育研究会】

7月5日(金)に、市立まえばし幼稚園で市立幼稚園保育研究会が開催されました。今年度は「友達への親しみの気持ちを持ち、仲よく遊ぶ幼児の育成~特別な配慮を必要とする幼児との関わりを意識した環境の構成に着目して~」をテーマに研究会を行いました。学年別協議では、参加して下さった園所の先生方の保育での悩みを共有し、意見交換を行いました。今後の保育に役立つ情報や工夫が様々な視点から提示され、有意義な研修会となりました。



保育者の声掛けが温かく、一人一人の幼児を深く理解して環境構成をしているから、こどもたちは遊び込めるのだと感じました。遊び込めている時はこどもの世界観を大事に見守り、時には、手助けをしながら、人と人との大切な関わりを自然ともてるような環境の工夫がとても勉強になりました。

(アンケートより)

こどもの見取りが援助に大変重要であるということを改めて学ばせて頂きました。様々な意見を聞くことができとても参考になりました。

(アンケートより)